



第1118号
2009年4月5日発行
日本聖公会東京教区
港区芝公園3-6-18
編集人 伊藤裕元

WEB: <http://www.nskk.org/tokyo/index.htm> E-MAIL: comm.tko@nsk.org
Phone: 03-3433-0987, Fax: 03-3433-8678 Diocese Office

◇4月の代禱・信施奉献先
▽エルサレム教区のため(受苦日4・10)▽国際こども学校の働きのため▽在日外国人 인권問題のため▽柏聖アンデレ教会のため
《奉献先から》

エルサレム教区のため
標記を覚えて歴史的に長い間受苦日の日に、祈りが献げられてきており、全聖公会の多くの管区・教区で守られている。当初、ACC(全聖公会中央協議会)の要請により始められ、日本聖公会内でのささげものは、「ユダヤ人伝道のため」としてエルサレム教区に送られていたが、現在では「エルサレム教区の働きのため」に祈りを添えて奉献されている。パレスチナの抱えている深刻な問題を考える

時、また近年エルサレム教区と東京教区の間で、様々な交流が続けられている折、祈りとささげものが平和のために用いられていくことに変わりはない。

▽銀座朝拝会(4月) 14日・28日(第2・4火曜、朝7時)

▽西新の会(4月) 14日(火) 19時半 聖餐式(高橋頭司祭) 28日(火) 10時半 聖

書の学び(関正勝司祭)
▽こどもニュース春号 教区・日曜学校スタッフ連絡会から今期春号(通算第14号)が発行されて、配布されている。
◆としえの平安
3月27日 深井 妙子(85)
3月30日 安田 春雄(87)
目白 小金井

今週・来週の予定

4月5日~18日

- 5(日) 復活前主日 合同堅信式 (主教座)
- 6(月) 教区企画室
- 8(水) 常置委員会 資料保全委員会
- 9(木) ~11(土) 聖なる三日間の礼拝 (主教座)
- 12(日) 復活日 主教巡回 東京聖十字教会(牧師任命式)
- 13(月) 正義と平和協議会運営委員会
- 14(火) 銀座朝拝会 IT~特別委員会 山手G牧師協議会
- 15(水) 教役者レクイエム (主教座) 聖職養成委員会
- 16(木) 主教座聖堂活動委員会
- 17(金) 教財務サービス委員会 芝公園~特別委員会

《掲載記事の転用可(事前連絡要)》

私たちは、いよいよ次主日イエス様のご復活を祝い、感謝します。

いま改めて自分自身のことを振り返ってみますと、何度も何度もイースターを迎えながらも、日々の忙しさに振り回されて、そこに至るまでの間、じつくりと聖書のみ言葉を味わい、祈禱書の文言葉を熟読玩味し、黙想の内にイエス様を、神様のお働きを思い巡らしてきたかとなりますと、決して胸を張れないところがあります。まさに「忙しい」という文字の如く、大事なものを亡くしてきたり後回しにしてきたことは否定できません。

選ぶ取ること

司祭 高橋宏幸

そのような反省を踏まえながら、信仰の原点であり、出発点である洗

礼の際の約束に改めて心を寄せたく思います。

一九五九年のいわゆる「文語の祈禱書」で育った一人ですが、「なんじ、悪魔とそのわざを捨て・こで始める問答がありました。確かに、「捨てる」ことの大切さを感じますが、その一方でイエス様のご生涯の一つ一つの在り方、取り分け「荒野での誘惑」を思い浮かべます時、そこでは常に何か(どちらか)を選び取られるイエス様の姿、しかも私たちのために、というお姿に出会います。「捨てる」という言葉使いが間違っているとは思いません。しかし、常にイエス様の生き方を一つの雛型として選ぶ時、私たちの信仰は、靈性は一層豊かなものとされていくのではないのでしょうか。(三光教会牧師)

◇人事(追加・4月1日付)

司祭 関 正勝

目白聖公会牧師管理のもと目白聖公会嘱託司祭を委嘱(任期1年)

◇教区・聖なる三日間の礼拝

主教座聖堂

4月9日(聖木曜日) 11時 聖

油聖別の聖餐式・司祭按手の約束の更新

10日(聖金曜日・受苦日) 正午

受苦日礼拝 司式・李民洙司祭

説教・高橋宏幸司祭

11日(聖土曜日) 18時 復活前

宵祭・復活のろうそくの礼拝

常置委員会報告 (3月20日)

新委員による第1回委員会から、抜粋報告(書記)。

*司祭・関正勝の嘱託委嘱(別

掲)を適当と答申した。

*東京諸聖徒教会協力支援体制強化のため、司祭・河野裕道および司祭・関正勝に協力依頼することとした。

信仰と生活委員会報告

(3月19日)

*青年活動支援部会報告 青年支援担当者の集い(3月28日・神田キリスト)を開催案内。各教会の現状を分かち合い今後の青年活動につなげて行く。

*各教会大斎節プログラム一覧を教区ホームページに掲載中(随時更新)。夏期キャンプ情報も掲載へ。

*研修会講師の選定を検討。

*環状G合同礼拝への支援金申し入れを受け、2万円援助。

*ソウル教区の家集会マニユ

アルの一部翻訳、進捗報告。

*各教会グループ、日曜学校連絡会(150周年記念礼拝に子どもコーラスの参加要請)、一粒の麦の会(教会巡り、バスツアーを計画)等の諸活動報告。

*宣教主事報告 Ⅱエルサレム教区司祭とイスラエル文化人類学者の講演会(4月26日・聖アンデレ教会)の呼びかけ開始報告。*その他。

▽聖公会神学院始業礼拝・教員任命式 4月6日(月) 14時

同院諸聖徒礼拝堂で、式後お茶会。新教員にはチャブレン・成成鐘(ソン・ソングジョン)司祭、専任教員・小林史明司祭、スピリチュアルディレクター・景山恭子師が就任。

【クローズアップ】9

下町大空襲を覚えて

下町教会グループ協議会では毎年、3月10日に下町大空襲記念礼拝を行います。1945年3月10日未明、2時間にわたるナバーム焼夷弾の爆撃と、明け方まで続いた逃げ場を絶たれての下町一体の大炎上によって、10万人の方々が犠牲になった日を記念する祈りの日です。

今年、台東9条の会の方々のご協力で、午後、浅草戦跡巡り、夜7時から神愛教会で記念礼拝、礼拝後にはアマチュアの落語家寝床屋道楽さんの「大空襲」という演目を伺うことができました。道楽さんのお話はご家族が下町大空襲で亡くなられ、ご自分は疎開されていたた

めに生き残ることができたという体験談でした。

下町のありとあらゆるところには大空襲の爪あとがくつきりと残っています。浅草戦跡巡りで言問橋に向けて歩いた隅田のほとりは、人々が炎と熱風から逃げまどった場所です。いつも通る言問橋の柱は当時と同じ石で支えられており、猛火の焼け跡が今もはつきりと残っています。熱風はどれ程すさまじかつ

たろうか、火から逃げようと飛び込んだ川の水はどんなに冷たかったろうか、どんなに恐ろしかったろうかと想像しながらの道すがらは、皆、足取りも口も重くなります。日々の厳しい生活を互いに助け合って過ごしていた下町は、それ故に人口密集

地であり、被害も甚大でした。そして残された方々の心の傷や痛みはあまりにも大きく、64年が経過しても未だ癒しがたいほどです。他の人の死の上に自分の命があるという感覚は、経験された方でないとは決して理解できるものではないでしょう。

だからこそ下町教会グループでは毎年、祈り続けます。非業の死を遂げた方々のために、もつと生きたかった方々のために、その方々との交わりが今も続いていることを確信して祈ります。またご家族やご親族、友人や知人を突然失った悲しみや痛みを抱えて生きている方々のために祈り続けます。

司祭 笹森 田鶴

(神愛教会)